令和８年度　　学校経営計画

教育目標
- 創　造　体験学習を通して視野を広げ、教養を深めるとともに、豊かな創造性と表現力を育てる
- 自　律　生徒一人ひとりの個性を伸ばし、自らの進路に向けた意欲を育て、自己実現を図る
- 信　頼　自ら考え、自ら行動できる力を育てるとともに、他者と協調し、国際社会に貢献する国際人としての資質向上を図る

Ⅰ　目指す学校像

スクール・ミッション

「創造」「自律」「信頼」を教育目標に掲げ、普通科単位制の特徴を生かして、生徒の可能性と個性を伸張する教育及び人間性を育成する教育を行う。幅広い教養と確かな学力を身に付け、国際理解教育とコミュニケーション能力向上を推進し、思いやりの心や地域及び社会に貢献する心を育成する。

１　グラデュエーション・ポリシー

多様な他者や変化する社会を理解し、自己の目標に対して主体的な努力を継続できる人間を育成する。

２　カリキュラム・ポリシー

本校の教育目標を達成するために、以下の基本方針に基づき、生徒の生きる力を育む、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する。

（1）進学・特活型教育を目指し、多様な体験を通して学ぶ喜びを体得させ、学びに向かう力を育成する。
（2）元気に挨拶でき、自らを正しく表現すると共に多様な他者と協調することができる人間力を育成する。
（3）生徒が自ら進路目標を掲げ、目標に向かって努力し、自己実現できる進路挑戦力を育成する。

３　アドミッション・ポリシー

体験的な国際理解教育や表現力の育成、多彩な選択科目、ゆるぎない生活指導を特色とする。したがって、次の各項目に該当する生徒の入学を希望する。

（1）本校の特色ある教育活動を理解し、積極的に取り組もうとする意志が明確な生徒
（2）大学進学など将来へのしっかりとした目的意識をもっており、入学後も学習活動に対して積極的に取り組むことができる生徒
（3）中学校での授業に積極的に取り組み、学習成果や取組内容について自信をもって語ることができる生徒
（4）中学校３年間の諸活動等で、意欲的に取り組んだ活動・体験について自信をもって語ることができる生徒

Ⅱ　中期的目標と方策

１　普通科単位制『進学・特活型』教育を推進し、学力向上と豊かな人間形成を育み、生徒の可能性を最大限に引き出す。

２　生徒が主体的に考え自ら掲げた進路目標に対し、その目標に向かって粘り強く挑戦し、自己実現できる進路指導を実践する。

３　国際理解教育推進校、海外学校間交流推進校として、その基盤となる英語力とコミュニケーション力を育成

し、課題を解決する論理的・創造的思考力の育成など、国内外で活躍できるグローバル人材の育成を図る。

4　生徒が元気に挨拶し、基本的生活習慣、社会的規範を自ら守る活気あふれる学校づくりを行う。

5　生徒、保護者及び地域から信頼され、生徒も地域の一員であることを踏まえ、開かれた学校を目指す。

カリキュラム・ポリシー	取　組　目　標
進学・特活型教育を目指し、多様な体験を通して学ぶ喜びを体得させ、学びに向かう力を育成する。	主体的・対話的で深い学びの実現により、自ら課題解決ができるための「行動力」と「実行力」の育成 生徒が主体的に学ぶ態度の確立を目指した授業、講習や授業外学習等の充実 教科横断的活動も含めた全教科による国際理解教育の推進
元気に挨拶でき、自らを正しく表現すると共に多様な他者と協調することができる人間力を育成する。	挨拶の励行、基本的生活習慣の徹底 部活動と学校行事の充実 個に応じた指導・支援の充実とインクルーシブ教育の推進 社会貢献意識の啓発、地域との連携・協力体制の確立
生徒が自ら進路目標を掲げ、目標に向かって努力し、自己実現できる進路挑戦力を育成する。	３年間を見通した系統的かつ組織的な進路指導の充実 自己理解を通して主体的に進路を切り拓き、自己実現を図る意識の育成 自ら探究し、希望した進路を納得して決定できる力の育成

Ⅲ　今年度の取組目標と方策

【生徒が自ら未来を掴(つか)むことができる「行動力」「実行力」の育成　】

1　教育活動の目標と方策

（1）学習指導（「自ら考え行動する力」の確立）

ア　生徒が自分らしく歩むことができるための進路実現に資する学力や実践力を身に付けさせる。

イ　生徒が自ら考え判断し行動できる力（「行動力」「実行力」）の基盤となる教育活動を推進する。

ウ　「生徒が何を身に付けることができたか。」が明確になるような計画的な授業実践を行う。

エ　教科会において定期考査や模試等の結果に基づく分析会を実施し、客観的・組織的な分析を踏まえた指導目標設定及び指導計画・実践の改善を行い、生徒の更なる学力向上を図る。

オ　授業外学習時間の増加を図るため、各教科で生徒の実態に応じた指導の工夫を行う。

カ　日常的な校内での相互の授業見学及び他校の実績のある教員の模範授業参加や他校に向けた研究授業の開催などをとおして、教員の授業力向上と組織的な授業改善を図る。

キ　教職員のデジタル技術の活用力を高め、オンライン学習活用等の着実な定着を図る。

（2）進路指導（「自らの力で自分らしく歩むことができるための進路実現」の達成）

ア　３年間を見通した系統的かつ組織的な進路指導の見える化を実行する。

イ　自分の未来を自らしっかりと掴(つか)むことができるために「自ら考え自ら行動して選択する」ことができる意識の醸成と行動力と実行力の育成を推進する。

ウ　希望する進路実現のために、高い向上心をもって挑戦できるための意欲と行動力・実行力の基盤となる知識・技能等を各教科で育成する。

エ　高校卒業後の進路実現だけではなく、生涯にわたり自分らしく歩むことができるためのキャリア教育を推進する。

オ　進路部主導で、大学入試分析等を根拠とした進路ガイダンスや相談機能を充実させる。

カ　教務部主導で、長期休業中の多彩な講習の一層の充実を図る。

（3）生活指導・安全指導（規律ある学校生活の定着）

ア　生徒が自分らしく、また、他者の自分らしさも尊重できる教育を学校一体となって組織的に実践する。

イ　生徒が本校に在籍していることを誇りにもち、本校の生活規律を守り改善する自律的な態度を養う。

ウ　生活安全・交通安全・災害安全等の安全教育の一層の充実を図る。
エ　いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組むため、学校いじめ防止対策委員会機能や学校カウンセリング機能を充実させ、学校全体で情報共有し、いじめ総合対策に基づいた対応を一層推進する。
オ　全教員が一丸となって、普段から生徒の様子をきめ細やかに見守り、小さなＳＯＳも見逃さない体制を継続する。日常的に教員同士で情報交換を行い、必要に応じて児童相談所、精神保健福祉センター、医療機関、当該地域を管轄する警察署等の関係機関と連携できるような組織体制の充実を図る。
カ　本校ＳＮＳルールについて、生徒会が中心となり検討及び改善を行い生徒へ周知していく環境の定着や、ＳＮＳ等による違法行為について、被害者や加害者にならないよう未然防止を図る。
キ　自転車安全運転指導により、登下校のヘルメット着用について組織的対応を継続する。

（4）特別活動・部活動（「行動力」と「実行力」の更なる実践）
ア　各行事において、生徒の体調、規律等を徹底した上で、「生徒が主体的に行動し、自分らしく表現できる場」となるよう内容の創意工夫を図る。
イ　生徒会、委員会、行事及び部活動等において、生徒が主体的に行動し、それらの取組がより良い活動の在り方につながるよう、生徒の実態に応じたきめ細やかな指導を組織的に行う。
ウ　体罰や不適切な言動のない指導を前提とし、生徒が自己実現できる部活動づくりを一層推進する。
エ　運動部、文化部ともに異校種との交流を推進し、本校の魅力を発信することで部活動の活性化を図る。
オ　TOKYO GLOBAL GATEWAY 事業や本校に赴任した JET 青年２名を活用したグローバル人材育成を継続する。
カ　昨年度実施した本校初の海外修学旅行の実施を踏まえ、国際理解教育の一層の充実を図る。

（5）心身の健康づくり（豊かな心、健やかな体の基盤の育成）
ア　「保健だより」を活用し、生徒に保健室業務の一層の見える化を図る。
イ　全教員が受容的態度を大切にすることを基本に日常的に生徒の状況を把握し、必要な情報を組織的に共有するとともに、各学期初めには生徒の状況確認を確実に行うことで心身の健康づくりと早期ケアの充実を図る。
ウ　２名のスクールカウンセラーを活用した校内研修等を通じて、学校の相談体制・教員のカウンセリングマインドの向上を推進する。必要に応じて、シニア・スクールカウンセラー派遣によるスクールカウンセラーへの助言及び不登校や福祉的支援が必要な場合はユースソーシャルワーカーの派遣を要請するなど、本校の実態により応じた調和性の高い相談体制の構築を図る。
エ　特別な支援が必要な生徒への共通理解と組織的な対応を推進するため、特別支援コーディネーターを中心にして個別案件に丁寧に対応し、インクルーシブな教育を一層推進する。
オ　「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づいて体力向上を図り、心身の健康づくりをより推進する。
カ　自他の生命の大切さを実感させる取組やＳＯＳの出し方に関する教育を推進するため、組織的な相談体制を充実させ、生徒の心身の悩みに対応するとともにいじめ撲滅を強く決意していく。

（6）募集広報活動（情報発信・提供の更なる強化）
ア　進学・特活型の普通科単位制高校として、その特色の「見える化」を充実させる。
イ　「多様な希望進路実現への丁寧できめ細やかな指導」という本校の特色を一層アピールする。
ウ　ホームページの随時更新等ＳＮＳの活用により、本校の教育活動をタイムリーに発信し、中学生やその保護者、地域の方々の本校に対する興味・関心および理解と信頼を得る。
エ　学校説明会や学校見学会等において本校理解をより推進するため、本校への受検希望者やその保護者が来校できるよう工夫し、期待に応える本校をアピールする。
オ　ホームページによる学校行事、部活動及び生徒会活動等の情報更新を一層充実させ、本校の特化した教

育活動の魅力が伝わるべく情報発信を行う。
カ　読書習慣や英検２級取得への取組等、生徒の日常的な活動の情報発信も強化する。

（7）学校経営・学校運営（連携と育成、体制の確立）
ア　西部学校経営支援センター支所との連携から、職務の効率化を図り学校経営の基盤をより強化する。
イ　ＯＪＴを活用して各職層の人材育成を図り、課題解決に取り組む活気ある校内体制をより推進する。
ウ　「期待に応える学校づくり」を推進するために、学校評価アンケート調査に基づいた課題の解決を図る。
エ　「ライフ・ワーク・バランス」について、計画的な仕事の進め方や業務の効率化を徹底させるとともに、働き方改革プランの推進を全教職員に取り組ませ、一方で、働き方改革を推進するために、保護者と協力関係を構築した取り組みを展開する。
オ　服務事故０を継続するために、服務事故防止研修の実施や、様々な場面での相互及び複数人でのチェック等を確実に実施し、服務事故根絶を図る。
カ　学校のＤＸ化を通じた職員室及び業務の改善を一層図り、ペーパーレス化をすることにより、情報紛失等事故の確実な防止及び教員の働き方改革を一層推進させる。

（8）個性豊かな特色ある普通科単位制高校として【未来を掴(つか)むための教育活動の魅力化】
ア　国際理解教育推進校として、全校体制の英検受験・スピーチコンテスト・選択科目として第２外国語設置・国際交流事業・海外修学旅行・イングリッシュラウンジ等各種教育活動の取組を通じて、国際的感性やコミュニケーション能力を身に付かせ、国際社会の中で未来を切り拓く人材を育成する。
イ　「表現」（学校設定教科）を通して、その内容の充実を図りながら、自分自身が打ち込んだ表現科目について自信をもって実践していく自己表現力を育成する。
ウ　ブリッジ（総合的な探究の時間）により３年間を見据えた進路指導を実践し、生徒一人ひとりが「自ら考え自ら行動して選択する」ことで向上心をもって目指した進路希望の実現をさせるために、全ての教育活動をもって必要な力の育成を行う。

２　重点目標と方策
（1）「行動力」と「実行力」の育成（自ら考え、判断し、課題解決を図り目標を達成する力の育成）
（2）「生徒が何を身に付けることができたか。」が見える教育活動の定着
（授業を始めとする教育活動において、活動の結果の到達度を踏まえた目標設定と計画的活動の実施）
（3）教職員のデジタル技術の活用力向上（あらゆる場面における効果的なデジタル活用の創意工夫）
（4）指導力向上のための研修の推進（あらゆる教育課題に対応できる高い指導力の育成）
（5）授業外学習時間の増加（生徒の主体的な学習活動のための補習・補講等の確立及び環境の設定）
（6）地域に開かれた学校としての存在の確立（近隣中学校・高校・大学等との地域連携等の更なる推進）
（7）読書活動の推進（あらゆる教育活動における図書館の意図的・計画的な活用の推進）

令和８年度の数値目標と昨年度の実績

数値目標	令和７年度　実績	令和８年度　数値目標
（1）進路決定率	９２．６％	９５％
（2）大学入学共通テスト受験者数	１８８名	１９０名
（3）特色ある大学等現役合格者数 ア　国公立・早慶上理・GMARCH合格者 イ　医療・看護系大学等合格者	 ア　４３名 イ　３０名（希望者全員）	 ア　４５名 イ　希望者全員合格
（4）資格取得 ア　英語検定準２級以上 イ　漢字検定準２級以上	 ア　２４５名 （2級１１０　準1級２０） イ　8名（2級4名）	 ア　２５０名 イ　１０名
（5）部活動加入率	９０．４％	９２．０％
（6）部活動　好成績 都ベスト１６、関東・全国大会等	6部	8部
（7）図書館貸出冊数	４１００冊	４２００冊
（8）異校種（小中学校等）との連携	４３回	４５回
（9）学校説明会等参加人数 （中学生・保護者合計）	２７００名	２８００名
(10) 入学者選抜応募倍率 ア　推薦入学 イ　学力検査	 ア　３．７３倍 イ　１．４５倍	 ア　３．８０倍 イ　１．５０倍
(11) 生徒の授業満足度	９５.９％	９６％
(12) 学校満足度（肯定的回答） ア　生徒 イ　保護者	 ア　９１．３％ イ　８９．４％	 ア　９３％ イ　９０％